



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567001007	科目番号	05670010
授業科目名	●人間の科学(乳幼児期)		
編集担当教員	井口 均		
授業担当教員名(科目責任者)	井口 均		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井口 均,小西 祐馬		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]102		
対象学生(クラス等)	1年生		
担当教員Eメールアドレス	hitoshi@konishi@		
担当教員研究室	225(井口), 224(小西)		
担当教員TEL	2388(井口), 2328(小西)		
担当教員オフィスアワー	随時(但し, 事前連絡必要)		
授業のねらい	①乳幼児期にみられる不思議な現象について知り、人間の子どもの成長・発達の特異性について理解する。 ②妊娠から小学校入学までの子どもと親(家族)を取り巻く現状について理解を深める。 特に、全年齢層における格差の拡大が進行している中での乳幼児期における困難・問題について理解する。 ③乳幼児の現状と、保育、幼児教育、児童福祉の諸制度とのかかわりを検討し、幼稚園や児童福祉施設(保育所含む)の概要・役割・意義を理解する。		
授業方法(学習指導法)	基本的には講義形式による授業。レジュメ、配布資料、P.P.、DVD、ビデオ教材なども活用する。		
授業到達目標	①人間の子どものもつ具体的な特異性と乳幼児期の教育・保育のもつ重要性について説明できる。 ②現代の乳幼児とその家族がどのような状況にあるのかについて、少子化・虐待・貧困など具体的な問題を通して説明できる。 ③乳幼児期における教育・福祉・保育制度の基礎について説明できる。 ④乳幼児にかかわる幼稚園・児童福祉施設(保育所含む)の概要について説明できる。		
授業内容	第1回 オリエンテーションⅠ:人間の発達と乳幼児期 第2回 受精のメカニズム 第3回 ヤノママ族にみる出産 第4回 人間の子どもの出産時の特徴 第5回 赤ちゃんの初期行動の変化脳の関係 第6回 先取りの早期教育 第7回 初期教育・保育の質と発達への影響 第8回 まとめ 第9回 オリエンテーションⅡ:子ども・家族・社会の現状 第10回 結婚・妊娠・出産 第11回 少子化と子育て支援 第12回 日本の幼児教育・保育制度(1) 第13回 日本の幼児教育・保育制度(2) 第14回 日本の幼児教育・保育制度(3) 第15回 乳幼児期における要保護問題 第16回 まとめ		
キーワード	乳幼児、発達、保育、福祉、格差		
教科書・教材・参考書	自作資料、ビデオ等。参考書は随時紹介。		

成績評価の方法・基準等	・リアクションペーパー10～15%…ほぼ毎回、感想・意見・反論・疑問・質問を書いてもらう ・レポート40%…A4で2～3枚程度(約3000字)のものを課す予定。テーマや作成方法については後日、提示する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	教育学部幼稚園教育コース所属生は必ず履修。乳幼児教育・保育の専門基礎。
学習・教育目標	本授業のねらいを達成すること。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567001001	科目番号	05670010
授業科目名	●人間の科学(身体関係論入門)		
編集担当教員	山地 弘起		
授業担当教員名(科目責任者)	山地 弘起		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山地 弘起		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教]実践Cスタジオ		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	hyamaji@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部新館4階		
担当教員TEL	2087		
担当教員オフィスパワー	メールで相談のこと		
授業のねらい	皆さんは、人と話しているとき、パソコンで作業をしているとき、さらには、授業に出ているとき、どんな身体でいますか？不思議な質問だと思ったかもしれませんが。普段あまり意識しないことでしょう。しかし、どんな身体体験をしているかは、今この場での現実的な適応によるものでなく、個人的な心身の使い方の癖にもとづくものかもしれません。少し大きめに言えば、身体は、自分の住みこんでいる世界であり、自分の生き方の現れ(=姿勢)なのです。したがって、自分自身との関わり方が変わったり、姿勢が変わったりすると、世界も変わります。いわば、コミュニケーションの基盤は身体関係にあるといえるのです。そこで本科目では、自分と身体との関係、および身体と外界との関係について理解を深め、習慣を越えた、より自由で手応えのある生の可能性を探ります。普段あまり意識に上らない、生きてはたらく身体を、非日常の視線でていねいに捉え返すことで、世界と思考の幅が大きく広がることを願っています。		
授業方法(学習指導法)	(参加人数と教室によって変更あり) 身体関係論の代表的な考え方を紹介しながら、集中形式で体験学習を行います。毎回の予習/復習課題ののち、プレゼンテーションとレポートの課題を出します。期末試験は実施しません。		
授業到達目標	(参加人数と教室によって変更あり) ・ 日常的な心身の体験傾向を理解する。 ・ 身体の内側に意識を向け、さまざまな感覚や感情の推移を体験する。 ・ 自発的な身体動きに任せることで、意識下の調整過程に気づく。 ・ 身体次元の体験が言葉となってくるプロセスを体験する。 ・ 身体との関わり方が変わること、体験も変わること気づく。 ・ 身体動きの一部としての声や言葉の表出に気づく。 ・ 身体関係論の代表的な考え方を、二つ以上、体験を踏まえて説明することができる。 ・ 無自覚の社会適応の問題点とそれらへの対処案を、体験を踏まえて議論することができる。		
	(参加人数と教室によって変更あり) 第1回授業において、扱う内容や学習方法、評価の仕方等を説明し、参加者との間で必要な調整を行う予定です。第2回と第3回で人間主義的立場の心理学を紹介し、土曜日の午後3コマ(第4回～第6回)を使って体験学習を行います。同様に、第7回と第8回で精神力動的立場の心理学を紹介し、再び土曜日の午後3コマ(第9回～第11回)を使って体験学習を行います。第12回に行動主義的立場の心理学を紹介した後、第13回～第15回で、参加者からここまでの気づきと学びを整理して発表してもらいます。		
	回	内容	
	1	4月12日 身体関係論とは	
	2	4月19日 人間主義的立場 I	
	3	4月26日 人間主義的立場 II	
	4	5月14日 体験学習 I	

授業内容	5	5月14日 体験学習Ⅱ	
	6	5月14日 体験学習Ⅲ	
	7	5月17日 精神力動学的立場Ⅰ	
	8	5月24日 精神力動学的立場Ⅱ	
	9	5月28日 体験学習Ⅳ	
	10	5月28日 体験学習Ⅴ	
	11	5月28日 体験学習Ⅵ	
	12	6月 7日 行動主義的立場	
	13	6月14日 プレゼンテーションⅠ	
	14	6月21日 プレゼンテーションⅡ	
	15	6月28日 プレゼンテーションⅢ	
	16	定期試験は実施しない	
	キーワード	ソマティクス、身体学、身体関係論、身体心理学、身体心理教育、身体心理療法	
	教科書・教材・参考書	本科目では、自分の身体を読みひらく作業を行いますので、皆さん自身がテキストです。取替がききませんので、粗末に扱わないよう、注意してください。参考資料は、つぎの2冊のほか、授業のなかで随時紹介していきます。 「声が生まれる」 竹内敏晴著 中公新書 2007年 「心のメッセージを聴く」 池見陽著 講談社現代新書 1995年	
	成績評価の方法・基準等	(参加人数と教室によって変更あり)全回出席とプレゼンテーション、及び最終レポート提出(2000字程度)を前提にします。(授業への積極的取組み3点・予習課題1点・復習課題1点)×12回+プレゼンテーション10点+最終レポート30点=100点のうち、60点以上を合格とします。予復習課題の多い、かなりハードな授業だと思いますので、覚悟の上で参加して下さい。	
	受講要件(履修条件)	5月14日(土)と5月28日(土)の午後、いずれも3限から5限(12:50~17:40)を使う変則的なスケジュールなので、注意して下さい。その上で、全回出席が可能なこと、集中して授業に取り組むこと、自分の言動に責任を持てることを受講要件とします。	
本科目の位置づけ	本学教養教育の一部として、とくに「自主的に考え、発信する能力」および「学びを継続し自らを高め変革しようとする態度」の涵養に深く関わる科目です。		
学習・教育目標	全学共有学士像のうち、「自ら学び、考え、主張し、行動を変革する素養を有する」に向けて、批判的思考の一視座と方法を獲得するのが目標です。		
備考(URL)			
備考(準備学習等)	いろいろな姿勢や動きをしても大丈夫な服装で参加して下さい(身体を締め付ける服装や、スカートやサンダル等は避けて下さい)。		





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

LiveCampus

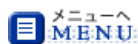
タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

[戻る](#)

学期	前期	曜日・校時	水2																				
開講期間																							
必修選択	選択	単位数	2.0																				
時間割コード	20110567001010	科目番号	05670010																				
授業科目名	●人間の科学(科学史)																						
編集担当教員	中村 修																						
授業担当教員名(科目責任者)	中村 修																						
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中村 修																						
科目分類	人間科学科目																						
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																				
教室	[全]430																						
対象学生(クラス等)																							
担当教員Eメールアドレス	osamu.nakamura@nifty.ne.jp																						
担当教員研究室	環境科学部4F 428																						
担当教員TEL	819-2727																						
担当教員オフィスアワー	火曜13時~16時																						
授業のねらい	科学は中立でも公平でもなく、権力に左右され、利害に振り回されて歪んで発達してきた、という考え方で、環境問題、食の問題、避妊など具体的な事例を挙げながら、科学の経済依存性、科学の現在、未来について説明する。																						
授業方法(学習指導法)	一方的な講義にならないよう、また考える力、話す力を養うため、講義では、多くの学生に発言を求めながら、展開する。																						
授業到達目標	科学が絶対的な真実の部分だけでなく、相対的なものも多く含むことを理解できる。人前で自分の考えをきちんと伝える力を身につける。環境問題と食の問題と科学の関連について理解できる。																						
授業内容	<p>科学が発達したのになぜ地球規模で環境問題が発生したのかこれ以上、科学が発達することで環境問題は、本当に解決するのか 環境問題、食、経済、中絶など、具体的な課題を掲げながら、科学のあり方について様々な視点から議論する</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学者のイメージ、商品としての科学 その1 科学者に対して抱くイメージは、どこから生まれてきたのだろうか</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>科学者のイメージ、商品としての科学 その2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>センスオブエコノミー その1 有限と無限の世界 フラスコの生き物</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>センスオブエコノミー その2 循環 山の上ではなぜ木が生長するのか</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>センスオブエコノミー その3 永久機関とエネルギー問題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経済が歪める環境と人間 その1 食と科学</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経済が歪める環境と人間 その2 食と科学</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>経済が歪める環境と人間 その3 食と科学</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>貨幣の科学 その1 増え続ける貨幣と減少する貨幣</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	科学者のイメージ、商品としての科学 その1 科学者に対して抱くイメージは、どこから生まれてきたのだろうか	2	科学者のイメージ、商品としての科学 その2	3	センスオブエコノミー その1 有限と無限の世界 フラスコの生き物	4	センスオブエコノミー その2 循環 山の上ではなぜ木が生長するのか	5	センスオブエコノミー その3 永久機関とエネルギー問題	6	経済が歪める環境と人間 その1 食と科学	7	経済が歪める環境と人間 その2 食と科学	8	経済が歪める環境と人間 その3 食と科学	9	貨幣の科学 その1 増え続ける貨幣と減少する貨幣
回	内容																						
1	科学者のイメージ、商品としての科学 その1 科学者に対して抱くイメージは、どこから生まれてきたのだろうか																						
2	科学者のイメージ、商品としての科学 その2																						
3	センスオブエコノミー その1 有限と無限の世界 フラスコの生き物																						
4	センスオブエコノミー その2 循環 山の上ではなぜ木が生長するのか																						
5	センスオブエコノミー その3 永久機関とエネルギー問題																						
6	経済が歪める環境と人間 その1 食と科学																						
7	経済が歪める環境と人間 その2 食と科学																						
8	経済が歪める環境と人間 その3 食と科学																						
9	貨幣の科学 その1 増え続ける貨幣と減少する貨幣																						

	10	貨幣の科学 その2 増え続ける貨幣と減少する貨幣
	11	貨幣の科学 その3 増え続ける貨幣と減少する貨幣
	12	ピルとバイアグラ その1 男性学と女性学
	13	ピルとバイアグラ その2 男性学と女性学
	14	ピルとバイアグラ その3 男性学と女性学
	15	報告 その1 講義で学んだ視点でレポートをまとめて、報告する
	16	報告 その2 講義で学んだ視点でレポートをまとめて、報告する
キーワード	経済に依存した科学、商品としての科学	
教科書・教材・参考書	長崎大学NAOSITEにて、中村修で検索して探してもらい、いくつかの論文を参考資料としてもらう。	
成績評価の方法・基準等	レポート50%、報告50%	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		





シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木1																																		
開講期間																																					
必修選択	選択	単位数	2.0																																		
時間割コード	20110567001012	科目番号	05670010																																		
授業科目名	●人間の科学(人間生命科学入門)																																				
編集担当教員	森 望																																				
授業担当教員名(科目責任者)	森 望																																				
授業担当教員名(オムニバス科目等)	森 望,小澤 寛樹,永田 泉,吉浦 孝一郎,増崎 英明,篠原 一之,中園 一郎,佐々木 均,下川 功																																				
科目分類	人間科学科目																																				
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																																		
教室	[全]205																																				
対象学生(クラス等)	1、2年生																																				
担当教員Eメールアドレス	morinosm@nagasaki-u.ac.jp																																				
担当教員研究室	医学部／神経形態学(第一解剖)																																				
担当教員TEL	095-819-7019																																				
担当教員オフィスアワー	木曜日 18:00-20:00																																				
授業のねらい	生命の成り立ち、ヒトとしての成長、こころの派生、周囲の人および環境とのかかわり、そして老いと死について、生命科学の立場から「人間」について学び、それについて自分の頭で考える。「人」として「人間」として「生きる」こと、「生きぬく」ことを真剣に考えることで、自分の人生の主軸を見いだす助けとする。																																				
授業方法(学習指導法)	オーガナイザーの森の他、医学部の教授を中心としたオムニバス方式。																																				
授業到達目標	「生命」について、その本質、「人間」としての成長、迷い、そして終焉の実態を理解し、「人」として生きることの大切さを理解し、「命のありかた」、「人間というもの」、そして「人間の一生」について自分なりの考え方を述べられるようにする。ひとりの大人としての人格形成の一助とする。																																				
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>いきる:生命科学概論 森 望(医学科／神経解剖)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>いのち:細胞／膜の中の生命 森 望(医学科／神経解剖)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>つながる:遺伝子／生命の糸 吉浦孝一郎(医学科／分子遺伝学)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>はたらく:蛋白質の一生 森 望(医学科／神経解剖)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>うまれる:誕生／命のはじまり 増崎英明(医学科／産婦人科)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>はぐむ:母と子／人間関係のはじまり 篠原一之(医学科／神経生理)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ゆめみる:脳科学からみる感と動 森 望(医学科／神経解剖)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>しんじる:脳科学からみる知情意と真善美 森 望(医学科／神経解剖)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>なやむ:脳科学からみる自己と他者 森 望(医学科／神経解剖)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>まよう:心のゆらぎ／精神疾患 小澤寛樹(医学科／精神科)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>さぐる:事件／犯罪と生命 中園一郎(医学科／法医学)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>なおす:くすりと生命 佐々木均(付属病院／薬剤部)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>おいる:老化と寿命 下川功(医学科／病理学)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>なくなる:脳死 永田泉(医学科／脳神経外科)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>いきぬく:人間であること 森 望(医学科／神経解剖)</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	いきる:生命科学概論 森 望(医学科／神経解剖)	2	いのち:細胞／膜の中の生命 森 望(医学科／神経解剖)	3	つながる:遺伝子／生命の糸 吉浦孝一郎(医学科／分子遺伝学)	4	はたらく:蛋白質の一生 森 望(医学科／神経解剖)	5	うまれる:誕生／命のはじまり 増崎英明(医学科／産婦人科)	6	はぐむ:母と子／人間関係のはじまり 篠原一之(医学科／神経生理)	7	ゆめみる:脳科学からみる感と動 森 望(医学科／神経解剖)	8	しんじる:脳科学からみる知情意と真善美 森 望(医学科／神経解剖)	9	なやむ:脳科学からみる自己と他者 森 望(医学科／神経解剖)	10	まよう:心のゆらぎ／精神疾患 小澤寛樹(医学科／精神科)	11	さぐる:事件／犯罪と生命 中園一郎(医学科／法医学)	12	なおす:くすりと生命 佐々木均(付属病院／薬剤部)	13	おいる:老化と寿命 下川功(医学科／病理学)	14	なくなる:脳死 永田泉(医学科／脳神経外科)	15	いきぬく:人間であること 森 望(医学科／神経解剖)	16	
回	内容																																				
1	いきる:生命科学概論 森 望(医学科／神経解剖)																																				
2	いのち:細胞／膜の中の生命 森 望(医学科／神経解剖)																																				
3	つながる:遺伝子／生命の糸 吉浦孝一郎(医学科／分子遺伝学)																																				
4	はたらく:蛋白質の一生 森 望(医学科／神経解剖)																																				
5	うまれる:誕生／命のはじまり 増崎英明(医学科／産婦人科)																																				
6	はぐむ:母と子／人間関係のはじまり 篠原一之(医学科／神経生理)																																				
7	ゆめみる:脳科学からみる感と動 森 望(医学科／神経解剖)																																				
8	しんじる:脳科学からみる知情意と真善美 森 望(医学科／神経解剖)																																				
9	なやむ:脳科学からみる自己と他者 森 望(医学科／神経解剖)																																				
10	まよう:心のゆらぎ／精神疾患 小澤寛樹(医学科／精神科)																																				
11	さぐる:事件／犯罪と生命 中園一郎(医学科／法医学)																																				
12	なおす:くすりと生命 佐々木均(付属病院／薬剤部)																																				
13	おいる:老化と寿命 下川功(医学科／病理学)																																				
14	なくなる:脳死 永田泉(医学科／脳神経外科)																																				
15	いきぬく:人間であること 森 望(医学科／神経解剖)																																				
16																																					

キーワード	ヒト、生命、遺伝子、細胞、脳、心、老化、生死、人間であること
教科書・教材・参考書	教科書は特になし。 参考書: 時実利彦: 人間であること(岩波新書) 堀田・酒井: 遺伝子・脳・言語(中公新書) 養老孟司: 唯脳論(ちくま学芸文庫) 養老孟司: 人間科学(筑摩書房) 茂木健一郎: ところを生み出す脳のシステム: 「私」というミステリー(NHKブックス) 立花隆: 脳を究める／脳研究最前線(朝日文庫)
成績評価の方法・基準等	授業への参加状況(30%)とレポート(70%)で評価する。
受講要件(履修条件)	目的意識をもった自主学習ができる学生であること。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	





シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567001008	科目番号	05670010
授業科目名	●人間の科学(性と生)		
編集担当教員	宮原 春美		
授業担当教員名(科目責任者)	宮原 春美		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宮原 春美,井川 掌,井田 洋子,安日 泰子		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]102		
対象学生(クラス等)	受講者の制限有り。指定選択科目の学部優先		
担当教員Eメールアドレス	spring@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医学部保健学科4階宮原研究室		
担当教員TEL	095-819-7954		
担当教員オフィサー	メールでまず連絡下さい		
授業のねらい	<p>本講座は「人間の性とは何か」についてアプローチする。 近年、人々の性行動や規範は解放されてきたが、人々の生涯を豊かにする「人間関係としての性」の学習は保障されていない。この学習の不在に加えて、インターネットを頂点とするあふれるメディア情報に翻弄されているのが現代社会の姿ではなからうか。 人間の性は本能ではなく、学習により獲得されることが一つの特徴である。 「性」をテーマとして、自己と他者への思考を深め、性情報の取捨選択能力を培う。それらを通し、今後における個々人の豊かなセクシュアリティ確立とモラル形成を図る。</p>		
授業方法(学習指導法)	講義を中心に、一部演習・グループワークを取り入れる		
授業到達目標	<p>1.人間の性とは何かについて、科学的、社会的に考察できる。 2.人間の性の多様性と関係性について討議できる。</p>		
授業内容	<p>以下の授業内容に応じて担当教員がそれぞれの専門分野から講義を行う。 1, 2回:人間の性とは何かについて考える。 性科学で明らかにされてきた学際的な事実を知る。進化の過程からみたヒトの性の特徴、キンゼイレポートに始まる人々の性に対する様々な調査結果、マスターズ・ジョンソンが実験的に明らかにした「人間の性反応」などを学習する。まとめとしてWHOの定義した「セクシュアリティ」という概念について学ぶ。 3回:性別(セックス)の成り立ちの意味を科学的、社会的に学ぶ。またフェミニズムの視点から、ジェンダーについて学ぶ。 4~6回:人間の体の仕組みを「性の視点」から学ぶ。 相互の理解と尊重のために、基本的な性器の構造と生殖(妊娠・分娩)の仕組みを学習する。特に情報の乏しい男性の身体についても学び、セックスや性器に関する誤解を是正し、正確な性情報の選択能力を培う。 7回:性感染症の具体的な知識を得ることによって、若年世代での性感染症蔓延の実態を認識する。性的健康を可能にする行動やパートナーとの関係性について考える。AIDSを始めとする性感染症の最新情報を得る。 8~10回:リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて学ぶ。 リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて概観し、そのいくつかの健康課題について具体的な学習を通して豊かな男女の関係をいかに築くかを考える。 ・人工妊娠中絶に関する法律とその歴史的背景について ・避妊法(低用量ピル、緊急避妊法、コンドームなど)の進歩と実際について ・健康教育としての性教育の理論とその実際について 10, 11回:人間関係としての性を考える。 個人のあり方はその時代の男女の社会関係そのものであり、社会的視点から愛、家族、結婚等について考える。 12~15回:人間の性の多様性を学ぶ。 文化人類学的な視点から性の多様性を知る。また基本的な人権の視点から障害者、高齢者、同性愛者、トランスジェン</p>		

	ダーなどについて学ぶ。またレイプ、ドメスティック・バイオレンス、性的虐待、性の商品化などの現況を把握し、性行為における同意の質を考える。
キーワード	Sexuality, 多様性, ジェンダー, 同意, リプロダクティブヘルス/ライツ
教科書・教材・参考書	「人間の性とは何か」ミルトン・ダイヤモンド(小学館)、「セクソロジー・ノート」村瀬幸浩(十月舎) 「ジェンダーの西洋史」井上洋子他(法律文化社)、「性現象論」加藤秀一(勁草書房) 「Human Sexuality in a World of Diversity」Rathus, Spencer A. (Allyn & Bacon) 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」北村邦彦(メディカ出版)、「中絶論争とアメリカ社会」荻野美穂(岩波書店)、「ニューキンゼイレポート」(小学館)
成績評価の方法・基準等	各授業担当者毎に小テストを行う(40%)。また最終的なまとめとして課題レポート(40%)を提出する。授業への貢献度(20%)が悪い場合は評価の対象としない。
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567001011	科目番号	05670010
授業科目名	●人間の科学(映画から見る精神医学_シネサイキアトリーへの招待)		
編集担当教員	小澤 寛樹		
授業担当教員名(科目責任者)	小澤 寛樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小澤 寛樹		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]430		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	ozawa07@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	精神神経科		
担当教員TEL	095-819-7293		
担当教員オフィスパワー	水 12:00-13:00		
授業のねらい	具体的にイメージしにくい精神医学の様々な現象、症状、問題に関して映画・テレビなどの映像表現を通じて、人のこころに対する理解を深め、自己の考え・感情を理論的・能動的に議論することを目的とする。		
授業方法(学習指導法)	精神医学的問題をテーマとした映画あるいはドラマを取り上げ鑑賞する。疑問点を教員とともにグループ討論とし、時にディベートし、理解を深める。		
授業到達目標	主要な精神疾患患者の症状・病態・生活・人生を語る事ができる。		
授業内容	<p>人数にもよりますが、一例として下記のような方法を挙げておきます。</p> <p>テーマ、映画を決める(教員が題材についてはアドバイスします)</p> <p>→担当学生がインターネット、教科書などで精神医学・映画の概要を調べてくる</p> <p>→担当学生が精神医学に関するプレゼンテーション、教員補足</p> <p>→みんなで映画の鑑賞</p> <p>→担当学生が映画の解説と感想を述べる。その際、学生は話し合ってもらいたい論点を提示する</p> <p>→論点中心に皆で話し合いと映画の振り返り</p> <p>→感想を次回までにA4 1枚以上に書き、提出</p> <p>第1回・第2回: オリエンテーション</p> <p>第3回、第5回、第7回、第9回、第11回、第13回: 各回1つの映画について上記の通りの授業内容を行う。何回目にもどのテーマ(統合失調症、境界例、強迫性障害、うつ病、解離性同一性障害、器質性精神病)・映画にするかは、オリエンテーションで学生と相談の上、決定する。</p> <p>【注意】</p> <p>3回目以降の講義場所は大学病院内の精神科カンファレンスルーム等(木曜17時開始)となります。</p> <p>映画やドラマを鑑賞するという都合上、2コマ分の時間を利用します。(日程は講義初日に皆さんと相談して決定します)</p> <p>5校時目以降に他の科目を受講される方は、履修をご遠慮ください。</p> <p>講義初日の詳細(教室など)を掲示予定ですので、ご注意ください。</p>		
キーワード			
教科書・教材・参考書	プリントの配布 MOVIES AND MENTAL ILLNESS3		
成績評価の方法・基準等	レポート評価(50%) ディスカッションへの参加状況(50%)		

受講要件(履修条件)	5校時目以降に他の科目を受講される方は、履修をご遠慮ください。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567001009	科目番号	05670010
授業科目名	●人間の科学(性と生)		
編集担当教員	宮原 春美		
授業担当教員名(科目責任者)	宮原 春美		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宮原 春美,井川 掌,井田 洋子,安日 泰子		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]102		
対象学生(クラス等)	受講者の制限有り。指定選択科目の学部優先		
担当教員Eメールアドレス	spring@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医学部保健学科4階宮原研究室		
担当教員TEL	095-819-7954		
担当教員オフィサー	メールでまず連絡下さい		
授業のねらい	<p>本講座は「人間の性とは何か」についてアプローチする。</p> <p>近年、人々の性行動や規範は解放されてきたが、人々の生涯を豊かにする「人間関係としての性」の学習は保障されていない。この学習の不在に加えて、インターネットを頂点とするあふれるメディア情報に翻弄されているのが現代社会の姿ではなからうか。</p> <p>人間の性は本能ではなく、学習により獲得されることが一つの特徴である。</p> <p>「性」をテーマとして、自己と他者への思考を深め、性情報の取捨選択能力を培う。それらを通し、今後における個々人の豊かなセクシュアリティ確立とモラル形成を図る。</p>		
授業方法(学習指導法)	講義を中心に、一部演習・グループワークを取り入れる		
授業到達目標	<p>1.人間の性とは何かについて、科学的、社会的に考察できる。</p> <p>2.人間の性の多様性と関係性について討議できる。</p>		
授業内容	<p>以下の授業内容に応じて担当教員がそれぞれの専門分野から講義を行う。</p> <p>1, 2回:人間の性とは何かについて考える。</p> <p>性科学で明らかにされてきた学際的な事実を知る。進化の過程からみたヒトの性の特徴、キンゼイレポートに始まる人々の性に対する様々な調査結果、マスターズ・ジョンソンが実験的に明らかにした「人間の性反応」などを学習する。まとめとしてWHOの定義した「セクシュアリティ」という概念について学ぶ。</p> <p>3回:性別(セックス)の成り立ちの意味を科学的、社会的に学ぶ。またフェミニズムの視点から、ジェンダーについて学ぶ。</p> <p>4~6回:人間の体の仕組みを「性の視点」から学ぶ。</p> <p>相互の理解と尊重のために、基本的な性器の構造と生殖(妊娠・分娩)の仕組みを学習する。特に情報の乏しい男性の身体についても学び、セックスや性器に関する誤解を是正し、正確な性情報の選択能力を培う。</p> <p>7回:性感染症の具体的な知識を得ることによって、若年世代での性感染症蔓延の実態を認識する。性的健康を可能にする行動やパートナーとの関係性について考える。AIDSを始めとする性感染症の最新情報を得る。</p> <p>8~10回:リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて学ぶ。</p> <p>リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて概観し、そのいくつかの健康課題について具体的な学習を通して豊かな男女の関係をいかに築くかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人工妊娠中絶に関する法律とその歴史的背景について 避妊法(低用量ピル、緊急避妊法、コンドームなど)の進歩と実際について 健康教育としての性教育の理論とその実際について <p>10, 11回:人間関係としての性を考える。</p> <p>個人のあり方はその時代の男女の社会関係そのものであり、社会的視点から愛、家族、結婚等について考える。</p> <p>12~15回:人間の性の多様性を学ぶ。</p> <p>文化人類学的な視点から性の多様性を知る。また基本的な人権の視点から障害者、高齢者、同性愛者、トランスジェン</p>		

	ダーなどについて学ぶ。またレイプ、ドメスティック・バイオレンス、性的虐待、性の商品化などの現況を把握し、性行為における同意の質を考える。
キーワード	Sexuality, 多様性, ジェンダー, 同意, リプロダクティブヘルス/ライツ
教科書・教材・参考書	「人間の性とは何か」ミルトン・ダイヤモンド(小学館)、「セクソロジー・ノート」村瀬幸浩(十月舎) 「ジェンダーの西洋史」井上洋子他(法律文化社)、「性現象論」加藤秀一(勁草書房) 「Human Sexuality in a World of Diversity」Rathus, Spencer A. (Allyn & Bacon) 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」北村邦彦(メディカ出版)、「中絶論争とアメリカ社会」荻野美穂(岩波書店)、「ニューキンゼイレポート」(小学館)
成績評価の方法・基準等	各授業担当者毎に小テストを行う(40%)。また最終的なまとめとして課題レポート(40%)を提出する。授業への貢献度(20%)が悪い場合は評価の対象としない。
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	





タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567001002	科目番号	05670010
授業科目名	●人間の科学(対人世界の心理学)		
編集担当教員	山地 弘起		
授業担当教員名(科目責任者)	山地 弘起		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山地 弘起		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]227		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	hyamaji@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部新館4階		
担当教員TEL	2087		
担当教員オフィサー	メールにて相談のこと		
授業のねらい	皆さんは、例外なく、他の人間たちのなかで生まれ、育ち、今に至っている筈です。周りを見渡せば、親密な関係(家族など)もあれば、生活の一部での関係(クラスメイトなど)やごくわずかな一方的な関係(テレビを通してなど)もあるでしょう。上下関係や年齢に応じた立場や役割に気づくこともあるでしょう。さらには、故人や先祖とのつながりを感じることもあるかもしれません。好き嫌いや相性といったもので、付き合い方を変えていることもあるかもしれません。我々は、皆、そうした様々な質に彩られた関係の網目のなかで日々を過ごしています。と同時に、各自の認知機能や性格傾向などにおいて、その多くの部分は、これまでの対人関係の所産といえます。発達過程における対人関係の重要性を、強調しすぎることはできません。そして今後、さまざまな場で相互にケアし合える関係を構築していくことは、次世代への重要な責任の一つといえるでしょう。そこで本科目では、①対人世界のありようを意識化する、②対人関係スタイルの成り立ちのプロセスを吟味する、③互いの成長を支え合う関係構築の方法を模索する、の3つのねらいを設定します。		
授業方法(学習指導法)	(参加人数と教室によって変更あり) 自己理解の体験学習を含めながら、関連した代表的な考え方をグループで検討していきます。授業外の時間での研究活動とともに、3回のグループ・プレゼンテーションと最終レポートを求めます。期末試験は実施しません。		
授業到達目標	(参加人数と教室によって変更あり) ・自分の周囲の社会的ネットワークを記述することができる。 ・ソーシャルサポートの鍵概念について、説明することができる。 ・自分の対人関係スタイルを分析することができる。 ・社会情動的発達での鍵概念について、説明することができる。 ・自分の課題となっているソーシャルスキルを明示することができる。 ・ソーシャルスキルの鍵概念について、説明することができる。 ・ケアリングの関係構築の方法を、少なくとも一つ提案することができる。 ・関心をもった内容について、グループ研究を適切に行うことができる。		
	(参加人数と教室によって変更あり) 第1回授業において、扱う内容や学習方法、評価の仕方等を説明し、参加者との間で必要な調整を行う予定です。第2回から第5回までは、対人世界を記述する観点を学び、まず自分の周囲の社会的ネットワークはどういうものか、なかでも、必要なときに援助を期待できるソーシャルサポートのネットワークはどうなっているか、を検討します。その上で、ソーシャルサポートの機能についてグループ研究を行います。続く第6回から第9回までは、自分の発達過程を振り返った上で、社会情動的発達の代表的な考え方をグループで検討します。そして第10回から第13回までは、各々の潜在力をより発揮できるように互いに支え合う関係(ケアリング)とはどういうものか、その方向に発達を進めるための条件は何か、といった点について、グループ研究を行います。最後の2回は、ここまでの学習をまとめてレポートにする作業をグループで行います。		
	回	内容	
	1	10月5日 導入(学習方法の説明)	

授業内容	2	10月12日 社会的ネットワークの査定
	3	10月19日 ソーシャルサポートⅠ
	4	10月26日 ソーシャルサポートⅡ
	5	11月 2日 ソーシャルサポートⅢ
	6	11月 9日 対人関係スタイルの査定
	7	11月16日 社会情動的発達Ⅰ
	8	11月30日 社会情動的発達Ⅱ
	9	12月 7日 社会情動的発達Ⅲ
	10	12月14日 ソーシャルスキルの査定
	11	12月21日 ケアリングⅠ
	12	1月11日 ケアリングⅡ
	13	1月18日 ケアリングⅢ
	14	1月25日 レポート作成Ⅰ
	15	2月 1日 レポート作成Ⅱ
	16	定期試験は実施しない
	キーワード	対人関係、社会的ネットワーク、ソーシャルサポート、社会情動的発達、ソーシャルスキル、ケアリング
教科書・教材・参考書	教科書は指定しません。使用教材と参考資料は授業第1回に説明します。	
成績評価の方法・基準等	(参加人数と教室によって変更あり) 全回出席、グループ研究とグループ・プレゼンテーション、最終レポート提出(4000字程度)を前提にします。授業への積極的取組み2点×15回+グループ研究とプレゼンテーション15点×3回+レポート25点=100点のうち、60点以上を合格とします。	
受講要件(履修条件)	全回出席が可能なこと。授業外の時間も使ってグループ課題に取り組むこと。自分の言動に責任を持てること。	
本科目の位置づけ	本学教養教育の一部として、とくに「自主的に考え、発信する能力」、「学びを継続し自らを高め変革しようとする態度」、「および「多様性を認め、相互に啓発し合う態度」の涵養に深く関わる科目です。	
学習・教育目標	全学共有学士像のうち、「自ら学び、考え、主張し、行動を変革する素養を有する」に向けて、批判的思考の一視座と方法を獲得するのが目標です。	
備考(URL)		
備考(準備学習等)	かなりハードな授業だと思いますが、成果を期待して参加して下さい。	





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

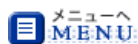
戻る

学期	後期	曜日・校時	木1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567001005	科目番号	05670010
授業科目名	●人間の科学(心理学概論)		
編集担当教員	原田 純治		
授業担当教員名(科目責任者)	原田 純治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	原田 純治		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]102		
対象学生(クラス等)	1・2年次		
担当教員Eメールアドレス	harada@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部 222室		
担当教員TEL	(095) 819-2396		
担当教員オフィスマワー	木2		
授業のねらい	今日の心理学の体系を心理学及び隣接諸科学の歴史の視点から説明できる。日常生活上の諸現象を、思考、社会的認知、パーソナリティ、及び発達の視点から分析・考察できる。		
授業方法(学習指導法)	講義		
授業到達目標	上記「ねらい」に掲げる諸点を到達目標とする。		
授業内容	回	内容	
	1	心理学の歴史(1)	
	2	心理学の歴史(2)	
	3	心理学の歴史(3)	
	4	思考-考えることの仕組み(1)	
	5	思考-考えることの仕組み(2)	
	6	社会的認知-他者を知ることの仕組み(1)	
	7	社会的認知-他者を知ることの仕組み(2)	
	8	社会的認知-他者を知ることの仕組み(3)	
	9	パーソナリティ-心の個人差と適応(1)	
	10	パーソナリティ-心の個人差と適応(2)	
	11	パーソナリティ-心の個人差と適応(3)	
	12	発達-心の働きの成長と発達(1)	
	13	発達-心の働きの成長と発達(2)	
	14	発達-心の働きの成長と発達(3)	
	15	心理学の研究法	
16	全授業の総括(試験を含む)		
キーワード	心理学・歴史・他者を知る・心の仕組みと発達		
教科書・教材・参考書	北尾倫彦・中島実・石王敦子著「グラフィック心理学」(サイエンス社)		

成績評価の方法・基準等	小テスト50%、定期テスト50%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木1														
開講期間																	
必修選択	選択	単位数	2.0														
時間割コード	20110567001015	科目番号	05670010														
授業科目名	●人間の科学(ピアジェとフロイト)																
編集担当教員	綿巻 徹																
授業担当教員名(科目責任者)	綿巻 徹																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	綿巻 徹																
科目分類	人間科学科目																
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目														
教室	[全]124																
対象学生(クラス等)	全学部																
担当教員Eメールアドレス																	
担当教員研究室	教育学部2階217番研究室																
担当教員TEL	095-819-2397																
担当教員オフィスアワー	毎週水曜日16時30分から17時30分まで																
授業のねらい	20世紀の心理学、人間科学に大きな影響を及ぼしたフロイトとピアジェの原典をていねいに読む作業をとおして、この二人の実践・理論家における理論構成の特徴とその理論形成の時代的、学問的背景について学ぶ。このことをとおして、人間をみる際の着眼点や発想の面白さと、ロジックの立て方を知るとともに、認知、感情、自我(自己)の側面から個人の成長発達、個人と他者の関係についての理解を深める。																
授業方法(学習指導法)	講義形式で行う。																
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. フロイトとピアジェの理論のカギとなる説明概念を説明できるようにする。 2. 両理論は人間発達をどのようにモデル化しているかを説明できるようにする。 3. 両理論はこの二人に先立つ理論や経験的証拠をどのように取舍選択して、新たな理論として組み直したかを説明できるようにする。 																
授業内容	<p>本講義ではフロイトとピアジェの2理論について学習する。フロイトの理論は親子間、男女間の愛情関係(性的エネルギー)を鍵概念にして、自我の発達を力動的、経済論的、空間論的にモデル化した理論である。「精神分析入門」の第3部神経症総論の第17講～第19講、第21講～第23講、第25講～第27講を、毎回1講ずつていねい読んでいくことによって、フロイト理論のカギとなる説明概念及び、モデル構成と論理の組み立て方を学ぶ。</p> <p>ピアジェ理論は、感覚運動、表象、操作の発達と認知の構造化という視点から人間の知的活動の発達をモデル化した理論である。ピアジェの著した小論文の中から3点を教材にして、感覚すること、行動すること、認識することが個人の発達の中でいかに知(エピステーメ)へと構成、組織化されていくについてピアジェの考えたこと、それを裏づけるための経験的証拠や手法について学ぶ。</p> <p>これらをとおして、人間発達に関する理解を深める。</p> <p>2回目以降に、講義内容の習得状況を確認するための小テストを4回実施する。</p> <p>16回 2月9日:定期試験</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>10月6日 フロイトの業績と人物像</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10月13日 フロイトが青年期に学んだ自然科学(19世紀後半までの「力学」の発展史を中心に)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>10月20日 症状の意味</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10月27日 外傷への固着 無意識</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>11月10日 抵抗と抑圧</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>11月17日 リビドー発達と性愛の組織</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	10月6日 フロイトの業績と人物像	2	10月13日 フロイトが青年期に学んだ自然科学(19世紀後半までの「力学」の発展史を中心に)	3	10月20日 症状の意味	4	10月27日 外傷への固着 無意識	5	11月10日 抵抗と抑圧	6	11月17日 リビドー発達と性愛の組織
回	内容																
1	10月6日 フロイトの業績と人物像																
2	10月13日 フロイトが青年期に学んだ自然科学(19世紀後半までの「力学」の発展史を中心に)																
3	10月20日 症状の意味																
4	10月27日 外傷への固着 無意識																
5	11月10日 抵抗と抑圧																
6	11月17日 リビドー発達と性愛の組織																

	7	11月24日 発達および退行の諸観点 病因論
	8	12月1日 不安
	9	12月8日 リビドー論とナルシズム
	10	12月15日 感情転移
	11	12月22日 ピアジェの業績と人物像
	12	1月12日 主体と環境の相互作用
	13	1月19日 活動の発達と認識の道具の発達
	14	1月26日 感覚運動知能と表象的思考の発達
	15	2月2日 操作と構造の発達
	16	2月9日 定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	<p>【教科書】 フロイト 精神分析入門上下巻 新潮文庫</p> <p>【教材】 当該時間に学習する原典をリライト、解説した比較的長いプリントを配布しますが、フロイトの「精神分析入門」は各自必ず購入しておいてください。</p> <p>【参考書】 フロイト 自我論集 ちくま学芸文庫 フロイト エロス論集 ちくま学芸文庫 ピアジェ 発生的認識論 文庫クセジュ 白水社 ピアジェ・イネルデ 新しい児童心理学 文庫クセジュ 白水社 ピアジェ 思考の誕生:論理操作の発達 朝日出版社</p>	
成績評価の方法・基準等	小テスト合計点40点(10点×4回)、定期試験60点の配点とする。	
受講要件(履修条件)	原典を読み込むという形で授業を進めるので、必ず当該の章もしくは小論文を予習しておくこと。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		





シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木2																								
開講期間																											
必修選択	選択	単位数	2.0																								
時間割コード	20110567001013	科目番号	05670010																								
授業科目名	●人間の科学(脳の機能と学習力)																										
編集担当教員	鈴木 保巳																										
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 保巳																										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 保巳																										
科目分類	人間科学科目																										
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																								
教室	[全]430																										
対象学生(クラス等)																											
担当教員Eメールアドレス	ys11@nagasaki-u.ac.jp																										
担当教員研究室	教育学部本館2階 216																										
担当教員TEL	095-819-2385																										
担当教員オフィスパワー	メールにて時間を確認の上入室下さい。																										
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・脳機能を基盤として成り立つ学習行動について理解するきっかけを作る。 ・発達障害の脳研究に触れる。 ・人の行動を科学的に追求する視点を涵養する。 																										
授業方法(学習指導法)	パワーポイントを利用した講義形式。毎回、資料を配布するので、授業時の説明事項を記入すること。																										
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人の行動が脳機能に裏付けられたものであることを理解できる。 ・人の学習力について脳機能と対応させて簡単に説明できる。 ・学習に関する脳機能研究が生活支援・教育的支援にもたらす影響について考えられる。 																										
授業内容	<p>授業は参考書の内容に沿って進める。学習に関する脳機能研究が何を明らかにしつつ、生活支援・教育的支援の考え方にどのように寄与することができるかについて平易に解説する。</p> <p>下記参考書は脳の学習の入門書で且つ最新の知見にあふれています。興味のある方は、是非、通読を進めます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>10月6日 オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10月13日 脳の発達・発育</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>10月20日 幼児の言葉と数</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10月27日 数学のための脳</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>11月10日 読み書きのための脳</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>11月17日 読みの学習とその障害</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>11月24日 社会的発達・情緒的発達の障害</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>12月1日 思春期の脳</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>12月8日 生涯にわたる学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>12月15日 記憶と想起</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>12月22日 さまざまな学習法</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	10月6日 オリエンテーション	2	10月13日 脳の発達・発育	3	10月20日 幼児の言葉と数	4	10月27日 数学のための脳	5	11月10日 読み書きのための脳	6	11月17日 読みの学習とその障害	7	11月24日 社会的発達・情緒的発達の障害	8	12月1日 思春期の脳	9	12月8日 生涯にわたる学習	10	12月15日 記憶と想起	11	12月22日 さまざまな学習法
回	内容																										
1	10月6日 オリエンテーション																										
2	10月13日 脳の発達・発育																										
3	10月20日 幼児の言葉と数																										
4	10月27日 数学のための脳																										
5	11月10日 読み書きのための脳																										
6	11月17日 読みの学習とその障害																										
7	11月24日 社会的発達・情緒的発達の障害																										
8	12月1日 思春期の脳																										
9	12月8日 生涯にわたる学習																										
10	12月15日 記憶と想起																										
11	12月22日 さまざまな学習法																										

	12	1月12日 脳の学習力を活用する
	13	1月19日 脳研究を支える技術
	14	1月26日 脳の学習力をめぐるトピックス
	15	2月2日 「まとめ」および「レポート出題」
	16	2月9日 授業内レポート
キーワード		
教科書・教材・参考書		配付資料・・・ファイリングし、いつでも参照できるようにしておくこと。 参考書・・・S. J. ブレイクモア, U. フリス:脳の学習力ー子育てと教育へのアドバイス. 岩波書店, 2006 ISBN:4-00-005797-9 2800円(税別)
成績評価の方法・基準等		・授業への参加度:3割・・・単に出席しているだけでなく、能動的な発言や質問があるか、資料への説明事項の記入が 的確になされているかを判定材料とする。 ・授業内レポート:7割・・・配付資料や説明事項に関する理解度、授業のねらいの達成度についての設問を出題する。 ・4回以上欠席は自動的に不可。
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		生命体としてのヒト、生活主体としての人、社会的存在としての人間に興味を持って受講して下さい。





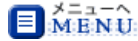
タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567001006	科目番号	05670010
授業科目名	●人間の科学(人の老化と死_高齢期社会を生きる)		
編集担当教員	中園 一郎		
授業担当教員名(科目責任者)	中園 一郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中園 一郎, 下川 功, 池松 和哉, 森 俊介		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]102		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	nakasono@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医学部法医学教室		
担当教員TEL	095-819-7076		
担当教員オフィスアワー	金曜日16:30~17:30		
授業のねらい	「人の死」および「人の老化」の理解と「尊厳死」などの死生学並びに高齢期社会のあり方(生き方)等について考える上での 基礎的知識の習得		
授業方法(学習指導法)	プリントなどの資料を用いるとともに、実際の症例等を提示して講義を行う		
授業到達目標	人の死、「人の老化」について理解でき、「尊厳死」などの死生学について自らの考えを構築する。また、高齢期社会のあり方(生き方)について考察する。		
	「人の老化と死」について病理・細胞生物学的に概説し、尊厳死などの死生学(タナトロジー)に関する入門的講義を行う。また、高齢期社会をいかに生きてゆくべきかを考察する。		
	回	内容	
	1	細胞における老化現象(下川) 人の老化現象を細胞生物学的に理解するために、これまでに提唱されたエラー説とプログラム説に大別し、それぞれを概説する。また、脳の老化と神経細胞の老化について認知症やアルツハイマー病などの症例を呈示する。	
	2	細胞における老化現象(下川) 人の老化現象を細胞生物学的に理解するために、これまでに提唱されたエラー説とプログラム説に大別し、それぞれを概説する。また、脳の老化と神経細胞の老化について認知症やアルツハイマー病などの症例を呈示する。	
	3	細胞における老化現象(下川) 人の老化現象を細胞生物学的に理解するために、これまでに提唱されたエラー説とプログラム説に大別し、それぞれを概説する。また、脳の老化と神経細胞の老化について認知症やアルツハイマー病などの症例を呈示する。	
	4	人の死について(1)(中園) 人の生から死への過程を概説し、脳死および植物状態について理解を深め、人の死とは何かを考える。	
	5	人の死について(1)(中園) 人の生から死への過程を概説し、脳死および植物状態について理解を深め、人の死とは何かを考える。	
	6	人の死について(1)(中園) 人の生から死への過程を概説し、脳死および植物状態について理解を深め、人の死とは何かを考える。	
	7	人の死について(1)(中園) 人の生から死への過程を概説し、脳死および植物状態について理解を深め、人の死とは何かを考える。	

授業内容	8	人の死について(2)(池松) 乳幼児や成人に発症する突然死例を呈示し、人の突然の死について考える。
	9	人の死について(2)(池松) 乳幼児や成人に発症する突然死例を呈示し、人の突然の死について考える。
	10	人の死について(3)(池松) 社会問題となっている自殺について、社会的・生物学的・法的側面から検討を加える。
	11	人の死について(3)(池松) 社会問題となっている自殺について、社会的・生物学的・法的側面から検討を加える。
	12	高齢期社会を生きる(森) 「安心して死ぬ」とは、たとえ障害があろうと、一人暮らしであろうと誰に気兼ねすることなく、自分の意思で自分の死に場所が選べることである。そのような地域を実現するためには、保健、医療、福祉の連携が当然であるが、地域社会の再構築が必須である。そのキーワードとなる「人は生まれ、そして死んでゆく」という人にとって絶対的なことについて死生学も含めて考える。
	13	高齢期社会を生きる(森) 「安心して死ぬ」とは、たとえ障害があろうと、一人暮らしであろうと誰に気兼ねすることなく、自分の意思で自分の死に場所が選べることである。そのような地域を実現するためには、保健、医療、福祉の連携が当然であるが、地域社会の再構築が必須である。そのキーワードとなる「人は生まれ、そして死んでゆく」という人にとって絶対的なことについて死生学も含めて考える。
	14	高齢期社会を生きる(森) 「安心して死ぬ」とは、たとえ障害があろうと、一人暮らしであろうと誰に気兼ねすることなく、自分の意思で自分の死に場所が選べることである。そのような地域を実現するためには、保健、医療、福祉の連携が当然であるが、地域社会の再構築が必須である。そのキーワードとなる「人は生まれ、そして死んでゆく」という人にとって絶対的なことについて死生学も含めて考える。
	15	まとめ(中園・池松) 人の老化・死について講義にて学んだことを踏まえ、時事問題について討議する。
	16	
	キーワード	人の老化、人の死、尊厳死、死生学、高齢期社会
教科書・教材・参考書	教科書を用いず授業内容に沿ったプリント(資料)を配布する。参考図書などを適宜紹介する。	
成績評価の方法・基準等	講義時間内、あるいは後に小テスト(30%)やレポート提出(70%)により評価する。	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		





シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金3																												
開講期間																															
必修選択	選択	単位数	2.0																												
時間割コード	20110567001014	科目番号	05670010																												
授業科目名	●人間の科学(対人関係と適応)																														
編集担当教員	谷口 弘一																														
授業担当教員名(科目責任者)	谷口 弘一																														
授業担当教員名(オムニバス科目等)	谷口 弘一																														
科目分類	人間科学科目																														
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																												
教室	[全]321																														
対象学生(クラス等)																															
担当教員Eメールアドレス	taniguti@nagasaki-u.ac.jp																														
担当教員研究室	教育学部215番研究室																														
担当教員TEL																															
担当教員オフィスアワー	毎週金曜日 15:00~16:00																														
授業のねらい	対人関係で生じる様々な問題に対して、どのようにすれば、適切かつ効果的に対処でき、精神的健康や適応を維持できるかについて理解すること。																														
授業方法(学習指導法)	講義形式(視聴覚教材、心理尺度等の実習教材、プリントを適宜使用)																														
授業到達目標	対人関係のポジティブな側面とネガティブな側面について説明できる。 対人関係に起因するさまざまなストレスに対して、適切な対処方略を取ることができる。																														
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>対人関係には、何か困ったときに助けてもらうことができるという良い面(ポジティブな側面)と、意見がぶつかりあって対立や衝突をしてしまうという悪い面(ネガティブな側面)の2つの側面がある。これら2つの側面は、いずれも個人の精神的健康や適応に対して大きな影響力をもっている。本講義では、対人関係の二面性、対人ストレスコーピング、ソーシャルサポートといったトピックを取り上げ解説する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>10月7日3校時 ストレスをもたらす対人関係ー対人関係の両面性</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10月14日3校時 ストレスをもたらす対人関係ーネガティブな対人関係(1)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>10月21日3校時 ストレスをもたらす対人関係ーネガティブな対人関係(2)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10月28日3校時 ストレスをもたらす対人関係ー対人ストレス研究の現状と今後</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>11月4日3校時 対人ストレスコーピングー心理的ストレス過程におけるコーピングの役割</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>11月11日3校時 対人ストレスコーピングー対人ストレスコーピングの概念・測定・種類</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>11月18日3校時 対人ストレスコーピングー対人ストレスコーピングと精神的健康</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>11月25日3校時 対人ストレスコーピングーさまざまな対人関係における対人ストレスコーピング</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>12月2日3校時 対人ストレスコーピングー対人ストレスコーピング研究の展開</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>12月9日3校時 ソーシャルサポートの基礎と応用ーソーシャルサポート研究の経緯</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>12月16日3校時 ソーシャルサポートの基礎と応用ーソーシャルサポートの概念・測定</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>1月6日3校時 ソーシャルサポートの基礎と応用ーソーシャルサポートの効果</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>1月20日3校時 ソーシャルサポートの基礎と応用ーソーシャルサポートとよりよい対人関係</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	10月7日3校時 ストレスをもたらす対人関係ー対人関係の両面性	2	10月14日3校時 ストレスをもたらす対人関係ーネガティブな対人関係(1)	3	10月21日3校時 ストレスをもたらす対人関係ーネガティブな対人関係(2)	4	10月28日3校時 ストレスをもたらす対人関係ー対人ストレス研究の現状と今後	5	11月4日3校時 対人ストレスコーピングー心理的ストレス過程におけるコーピングの役割	6	11月11日3校時 対人ストレスコーピングー対人ストレスコーピングの概念・測定・種類	7	11月18日3校時 対人ストレスコーピングー対人ストレスコーピングと精神的健康	8	11月25日3校時 対人ストレスコーピングーさまざまな対人関係における対人ストレスコーピング	9	12月2日3校時 対人ストレスコーピングー対人ストレスコーピング研究の展開	10	12月9日3校時 ソーシャルサポートの基礎と応用ーソーシャルサポート研究の経緯	11	12月16日3校時 ソーシャルサポートの基礎と応用ーソーシャルサポートの概念・測定	12	1月6日3校時 ソーシャルサポートの基礎と応用ーソーシャルサポートの効果	13	1月20日3校時 ソーシャルサポートの基礎と応用ーソーシャルサポートとよりよい対人関係
回	内容																														
1	10月7日3校時 ストレスをもたらす対人関係ー対人関係の両面性																														
2	10月14日3校時 ストレスをもたらす対人関係ーネガティブな対人関係(1)																														
3	10月21日3校時 ストレスをもたらす対人関係ーネガティブな対人関係(2)																														
4	10月28日3校時 ストレスをもたらす対人関係ー対人ストレス研究の現状と今後																														
5	11月4日3校時 対人ストレスコーピングー心理的ストレス過程におけるコーピングの役割																														
6	11月11日3校時 対人ストレスコーピングー対人ストレスコーピングの概念・測定・種類																														
7	11月18日3校時 対人ストレスコーピングー対人ストレスコーピングと精神的健康																														
8	11月25日3校時 対人ストレスコーピングーさまざまな対人関係における対人ストレスコーピング																														
9	12月2日3校時 対人ストレスコーピングー対人ストレスコーピング研究の展開																														
10	12月9日3校時 ソーシャルサポートの基礎と応用ーソーシャルサポート研究の経緯																														
11	12月16日3校時 ソーシャルサポートの基礎と応用ーソーシャルサポートの概念・測定																														
12	1月6日3校時 ソーシャルサポートの基礎と応用ーソーシャルサポートの効果																														
13	1月20日3校時 ソーシャルサポートの基礎と応用ーソーシャルサポートとよりよい対人関係																														

	14	1月27日3校時 ソーシャルサポートの互恵性－互恵性の理論的背景
	15	2月3日3校時 ソーシャルサポートの互恵性－互恵性に影響を与える要因
	16	2月10日3校時 定期試験
キーワード	対人関係、精神的健康、対人ストレス、対人ストレスコーピング、ソーシャルサポート	
教科書・教材・参考書	対人関係と適応の心理学―ストレス対処の理論と実践― 北大路書房	
成績評価の方法・基準等	期末試験100%(教科書・ノート等持ち込み不可) 授業で募集する実験や調査などへの参加による学習、もしくはそれに替わる課題なども評価に加味する。	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567001003	科目番号	05670010
授業科目名	●人間の科学(青年の心理)		
編集担当教員	山地 弘起		
授業担当教員名(科目責任者)	山地 弘起		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山地 弘起		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]227		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	hyamaji@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部新館4階		
担当教員TEL	2087		
担当教員オフィスアワー	メールにて相談のこと		
授業のねらい	<p>皆さんは、青年というと、どのようなイメージが浮かびますか？通常、青年期とは、中学生・高校生・大学生の年齢にあたるほぼ10年位をさすことが多いのですが、場合によっては30歳あたりまで延長して考えることもあります。恐らくほとんどの受講者は、まだ青年期のまっただ中であって、自分たちの共通の特徴を整理するのは難しいかもしれないですね。しかし、その一方、いまの中学生や高校生たちを共感的に理解できるのは、青年期から遠く離れてしまった私よりも、皆さんの方かもしれません。(ちなみに私は、中年期後半を経過中です。)人の一生には何度か重要な節目や移行期があるものですが、青年期はその最たるものといえるでしょう。子どもから大人への身体的・心理的変化は、「第二の誕生」と呼ばれるほどに大きなものです。本科目のねらいは、重要な移行期である青年期のうち、とくに大学生の時期の発達課題に焦点を当て、その社会的背景や対処支援の方法を考え合うことにあります。そのために、①パーソナリティ・対人関係・発達に関する自己理解と他者理解を深める、②青年心理学の基本を学習する、の二本立ての内容を連関させながら進めます。</p>		
授業方法(学習指導法)	(参加人数と教室によって変更あり) 自己理解・他者理解の実習を交えながら、講義と話し合いを行っていきます。受講者には、毎回の予習・復習課題を積み重ねて、気づきと学びをまとめて発表し、最終レポートを書いてもらいます。		
授業到達目標	<p>(参加人数と教室によって変更あり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のパーソナリティの傾向を振り返る。 ・自分の対人関係の傾向を振り返る。 ・自分のこれまでの発達過程を振り返る。 ・アイデンティティとは何かを説明することができる。 ・青年期の異性関係をとらえるキーワードを説明することができる。 ・青年期の親子関係をとらえるキーワードを説明することができる。 ・青年期の友人関係をとらえるキーワードを説明することができる。 ・青年期における学校と社会の意味を説明することができる。 		
	(参加人数と教室によって変更あり) 第1回授業において、扱う内容や学習方法、評価の仕方等を説明し、受講者との間で必要な調整を行う予定です。次いで、「アイデンティティ」「異性関係」「親子関係」「友人関係」「学校と社会」のそれぞれの切り口から青年期の特徴を学びながら、自分自身のパーソナリティや対人関係、発達過程の振り返りを並行して進めていきます。最後の3回は、これまでの各自の気づきと学びをまとめてプレゼンテーションしてもらいます。		
	回	内容	
	1	10月 7日 青年期とは	
	2	10月14日 アイデンティティ I	
	3	10月21日 アイデンティティ II	
	4	10月28日 異性関係 I	

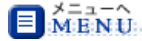
授業内容	5	11月 4日	異性関係Ⅱ	
	6	11月11日	親子関係Ⅰ	
	7	11月18日	親子関係Ⅱ	
	8	11月25日	友人関係Ⅰ	
	9	12月 2日	友人関係Ⅱ	
	10	12月 9日	青年期と学校Ⅰ	
	11	12月16日	青年期と学校Ⅱ	
	12	1月 6日	青年期と社会	
	13	1月20日	プレゼンテーションⅠ	
	14	1月27日	プレゼンテーションⅡ	
	15	2月 3日	プレゼンテーションⅢ	
	16	定期試験は実施しない		
	キーワード	自己理解、他者理解、アイデンティティ、青年期、大学生、発達課題		
	教科書・教材・参考書	教科書は、「エピソードでつかむ青年心理学」(大野久編著、ミネルヴァ書房、2010年)を指定します。 参考書は、つぎの5冊のほか、随時紹介していきます。 「よくわかる青年心理学」 白井利明編 ミネルヴァ書房 2006年 「青年の心理学」(改訂版) 落合良行・伊藤裕子・斉藤誠一著 有斐閣 2002年 「アイデンティティの心理学」 鎌幹八郎著 講談社現代新書 1990年 「新 自分さがしの心理学—自己理解ワークブック」 川瀬正裕・松本真理子著 ナカニシヤ出版 1997年 「ワークショップ 大学生生活の心理学」 藤本忠明・東正訓著 ナカニシヤ出版 2009年		
	成績評価の方法・基準等	(参加人数と教室によって変更あり) 全回出席、予習／復習課題の提出、プレゼンテーション、および最終レポート提出(2000字程度)を前提にします。(授業への積極的取組み3点・予習課題1点・復習課題1点)×12回+プレゼンテーション10点+最終レポート30点=100点のうち、60点以上を合格とします。		
	受講要件(履修条件)	全回出席が可能なこと。集中して授業に取り組むこと。自分の言動に責任を持てること。		
本科目の位置づけ	本学教養教育の一部として、とくに「自主的に考え、発信する能力」および「多様性を認め、相互に啓発し合う態度」の涵養に深く関わる科目です。			
学習・教育目標	全学共有学士像のうち、「自ら学び、考え、主張し、行動変革する素養を有する」に向けて、自己理解と他者理解を深めながら、本来の自由と人間的限界に気づくことを目指します。			
備考(URL)				
備考(準備学習等)	毎回、予習／復習課題があります。かなりハードな授業だと思いますので、覚悟の上で参加して下さい。			





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る

学期	後期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567001004	科目番号	05670010
授業科目名	●人間の科学(諸外国の教育と子ども)		
編集担当教員	楠山 研		
授業担当教員名(科目責任者)	楠山 研		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	楠山 研		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]403		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	kusuyama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部2階219番研究室		
担当教員TEL	kusuyama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員オフィスマナー	水曜3限。できればメールで連絡してください		
授業のねらい	教育は世界各地で古くから実施されてきた人間らしい営みとすることができます。その営みには一定の共通性がある一方で、その土地の歴史や文化、社会と密接に結びついているため、私たちが驚くような違いをもっています。この授業では、諸外国の教育制度や教育実践との比較をもとに、日本の教育の特徴と問題点を明らかにします。また日本国内にも文化や言語をめぐる様々な問題があることを確認します。こうして自分の教育体験のみを頼りに語ってしまいがちな「日本の教育」を客観視することを目指します。		
授業方法(学習指導法)	講義形式を中心に、授業中に配布するプリントに基づいて進めていきます。授業中に書いてもらう小レポート・アンケート等も、授業の一環として重視します。		
授業到達目標	教育や学校が現地の歴史や文化、社会と密接に結びついていることを認識できる。日本国内における異文化をめぐる様々な教育問題の存在を知る。その上で日本の教育問題について様々な視点から考えられるようになる。		
授業内容	①オリエンテーション ②諸外国の教育をみるための心の準備 ③教育が「違う」とはどういうことか ④世界の教育制度、学校制度 ⑤世界の教育と目的-同じ目的、違う方法-(1)ヨーロッパ ⑥世界の教育と目的-同じ目的、違う方法-(2)アジア ⑦世界の教育と目的-同じ目的、違う方法-(3)アメリカ ⑧学力の国際比較 ⑨一部の子どもに特別なことを教えること ⑩小学生に外国語を教えるということ -アジアにおける早期英語教育から-(1) ⑪小学生に外国語を教えるということ -アジアにおける早期英語教育から-(2) ⑫言語と教育 ⑬海外子女と帰国子女 ⑭ニューカマーの子どもと日本の学校 ⑮諸外国の教育をみてわかること ⑯定期試験		
	回	内容	
	1	10月7日 オリエンテーション	
	2	10月14日 諸外国の教育をみるための心の準備	
	3	10月21日 教育が「違う」とはどういうことか	

	4	10月28日 世界の教育制度、学校制度
	5	11月4日 世界の教育と目的-同じ目的、違う方法-(1)ヨーロッパ
	6	11月11日 世界の教育と目的-同じ目的、違う方法-(2)アジア
	7	11月18日 世界の教育と目的-同じ目的、違う方法-(3)アメリカ
	8	11月25日 学力の国際比較
	9	12月2日 一部の子どもに特別なことを教えること
	10	12月9日 小学生に外国語を教えるということ -アジアにおける早期英語教育から-(1)
	11	12月16日 小学生に外国語を教えるということ -アジアにおける早期英語教育から-(2)
	12	1月6日 言語と教育
	13	1月20日 海外子女と帰国子女
	14	1月27日 ニューカマーの子どもと日本の学校
	15	2月3日 諸外国の教育をみてわかること
	16	2月10日 定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	教科書は特に指定しません。主な参考書は以下の通り。 ・原清治、山内乾史、杉本均編著『教育の比較社会学』学文社、2004年。 ・田中圭治郎編著『比較教育学の基礎』ナカニシヤ出版、2004年。 他は授業時に随時紹介します。	
成績評価の方法・基準等	小レポート・アンケート等(50%) 期末テスト(50%)	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		

